

セロゴルド（山）とオリオン座の出現方位を指標に据えた テオティワカンの軸線決定案（試案）



北條芳隆 (2021.02.05)

重視する事実：この遺跡は北方にそびえるセロ・ゴルド（山）に軸線上の基準を据えている。しかし真北（地軸に沿った方位）から 15.5° 東に振れる。

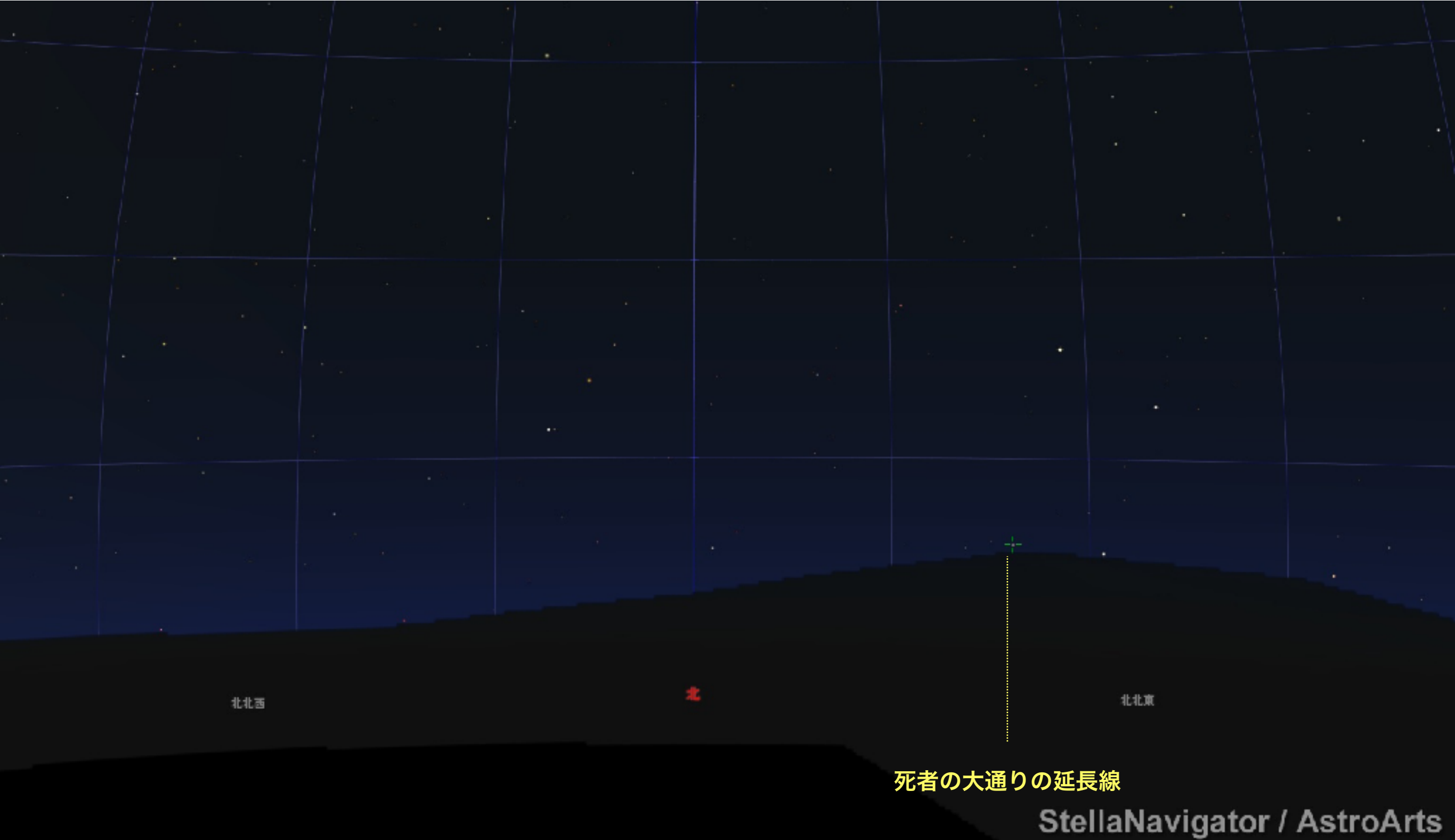
15.5° 東に振れる事実にたいする有力な解釈：特定の日時（太陽の天頂通過日近辺）の太陽の出没方位に直交させたためとされる。

太陽の出没方位以外の候補①：真東から 15.5 南（右）に振れた位置から昇る月や星、真西から 15.5° 北（右）に触れた位置に沈む月や星も同様に候補となる。

太陽の出没方位以外の候補②：視準先となったセロ・ゴルドの山頂から、つまり真北より 15.5° 東から出現する恒星も同様に候補となるはず。



太陽の出没方位以外の候補①：BC.200の秋、オリオン座のサイフは真東より 14.7° 南（右）に振れた位置から昇る。死者の大通りの軸線に直交する角度からの誤差は 0.8° である。その後は歳差運動のため、出現方位は左にズレる。



太陽の出没方位以外の候補②：BC.200にはセロ・ゴルドの山頂付近の真北より15.7°東からおおぐま座（北斗七星）のメグレスが出現する。誤差は0.2°。その後は歳差運動のため、メグレスの出現方位は左（北）にズレる。

セロゴルド（山）とオリオン座の出現方位を指標に据えた テオティワカンの軸線決定案（試案）

セロゴルド（山）と北斗七星

特定の期日の太陽の没方位



オリオン座の出現方位

丹羽・吉田説との関連：

北天で周回する北斗七星の出現方位と、東から昇り西に沈むオリオン座の出現方位の両者はおおむね90°の関係を示す。このうち北斗七星のメグレスはセロゴルド（山）の山頂付近から出現する。つまりセロゴルドの山頂・メグレスの出現方位を北の指標とし、オリオン座の出現方位を東の指標とすれば、正方位より15.5°右に偏った軸線決定になった、と解釈可能であろう。